

製品名: IRF-3 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab12743**

研究使用のみ

概要

| | |
|--------|--|
| 説明 | ウサギポリクローナル抗体 |
| 宿主 | うさぎ |
| 応用 | WB,IHC,ICC/IF,ELISA |
| 反応性 | ヒト、マウス、ラット |
| 標識 | 非共役 |
| 修飾 | 未修正 |
| アイソタイプ | IgG |
| クローン性 | ポリクローナル |
| 形態 | 液体 |
| 濃度 | 1mg/ml |
| 保存 | アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。 |
| 輸送 | 氷袋 |
| バッファー | 50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。 |
| 精製 | アフィニティー精製 |

応用

| | |
|------|--|
| 希釈倍率 | WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:10000 |
| 分子量 | 48-55kDa |

抗原情報

| | |
|--------------|--|
| 遺伝子名 | IRF3 |
| 別名 | IRF3; Interferon regulatory factor 3; IRF-3 |
| 遺伝子 ID | 3661.0 |
| SwissProt ID | Q14653 |
| 免疫原 | 抗血清はヒト IRF3 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 362-411 |

背景

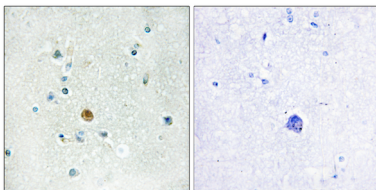
この遺伝子は、インターフェロン制御転写因子 (IRF) ファミリーのメンバーをコードしています。コードされているタンパク質は不活性な細胞質型で存在し、セリン / スレオニンリン酸化を受けて CREBBP と複合体を形成します。この複合体は核に移行し、イン

ターフェロンαおよびβ、ならびに他のインターフェロン誘導性遺伝子の転写を活性化します。この遺伝子には、複数のアイソフォームをコードする選択的スプライシング転写バリエーションが観察されています。[RefSeq 提供、2011年11月]、機能: インターフェロン刺激応答エレメント (ISRE) プロモーター活性化を媒介します。抗ウイルス活性の分子スイッチとして機能します。ウイルス感染の過程で生成される dsRNA は、IRF3 の C 末端セリン / スレオニンクラスターのリン酸化を引き起こします。これにより構造変化が誘発され、二量体化、核局在化、および CREB 結合タンパク質 (CREBBP) との会合が起こり、dsRNA 活性化因子 1 (DRAFI) が形成されます。この複合体は、ISRE の制御下にある遺伝子の転写を活性化します。この複合体は、IFN-α プロモーター上の IE 領域、IFN-β プロモーター上の PRDIII 領域にそれぞれ結合します。IRF-3 には転写活性化ドメインはありません。PTM: 多くのセリン残基が恒常的にリン酸化されています。C 末端のセリン / スレオニンクラスターは、IKBKE および TBK1 による誘導に応じてリン酸化されます。Ser-385 および Ser-386 は、誘導に応じて特異的にリン酸化される可能性があります。別のモデルでは、396 から 405 の間の 5 つのセリン / スレオニン残基がウイルス感染に応じてリン酸化されると提唱されています。IRF3 のリン酸化とそれに続く活性化は、ワクシニアウイルスタンパク質 E3 によって阻害されます。類似性: IRF ファミリーに属します。類似性: 1 つのトリプトファンペンタッドリピート DNA 結合ドメインを含みます。細胞内局在: 細胞質と核の間を往復し、主に輸送されます。活性化されると、IRF3 は CREBBP と相互作用し、細胞質への輸送を阻害します。サブユニット: ホモ二量体。リン酸化誘導性。CREBBP と相互作用します。MAVS と相互作用する可能性があります。IKBKE および TBK1 と相互作用します。TICAM1 および TICAM2 と相互作用します。ロタウイルス A の NSP1 と (C 末端を介して) 相互作用します。この相互作用は、IRF3 のプロテアソーム依存性分解を引き起こします。組織特異性: 様々な組織で恒常的に発現します。、

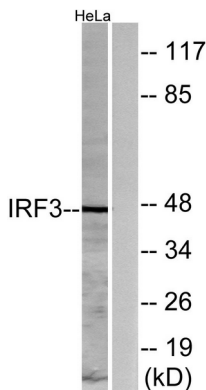
研究分野

Toll_Like;RIG-I 様受容体;細胞質 DNA 感知経路;

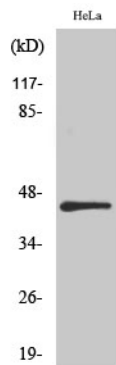
画像データ



IRF3 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした画像。



IRF3 抗体を用いた HeLa 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンには合成ペプチドでブロッキングされている。



1: 500 に希釈した IRF-3 ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット分析